

第5回乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議 議事録

■日時 2017年2月27日(月) 13:30-15:30

■場所 市役所東庁舎7階会議室

■委員

清水義次、泉英明、藤村龍至、長谷川浩己、山田高広

企画財政部(企画課 岡田)

経済振興部(商工労政課 畔柳、観光課 雑賀)

都市整備部(都市計画課 木下、乙川リバーフロント推進課 鈴木)

■事務局

乙川リバーフロント推進課 香村

NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた 天野

1. あいさつ

>主催者あいさつ

[乙川リバーフロント推進課 香村]

- ・あいさつと流れの説明

>乙川リバーフロント(以下、RF)地区デザイン会議の位置づけと進め方について

[りた 天野]

- ・資料1によって確認。
- ・参加された市民向けにデザイン会議の位置づけを説明。
- ・デザイン会議のメンバーの意見を聞いてもらうために会議を公開している。市民からの要望や意見を伺う場所ではない。ただし要望に対しメンバーの過半数の同意を得られた場合には意見を伺うこともある。
- ・本日はまちのトレジャーハンティング@岡崎のサブユニットマスターにお越しいただいている。まちのトレジャーハンティング@岡崎に対する質問などへの回答として、サブユニットマスター諸氏から意見をもらうこともあるが、発言を許可してもよいか。

[一同]

- ・異議なし。

2. RF地区における都市戦略策定のスキームについて

[りた 天野]

>都市戦略策定のスキームについて

- ・資料2によって確認。
- ・都市戦略策定のスキームの説明。
 - (1) ライフスタイルデザイン
 - A.循環型産業
 - B.健康な食産業
 - C.都市型産業
 - (2) 都市デザイン
 - D.都市交通機能

E.ストリートデザイン

F.エリアプロモーション

(3) エリアマネジメントデザイン

G.指定管理者制度改革

- ・RF 地区内の 50%を占める公共空間のマネジメントを想定し、(3) エリアマネジメントデザイン（体制構築）を想定している。
- ・まちのトレジャーハンティング@岡崎は、(1) ライフスタイルデザイン と (2) 都市デザインを対象に、まちのビジョンの提案を行うために開催した。

>都市戦略相関図について

- ・資料 2-2 によって確認。
- ・策定された年度順に相関図を作成。
- ・平成 28 年度から RF 地区公民連携基本計画について検討がされている。
- ・主要なまちづくりからの特定に向けた検討の中で、「歴史」「観光地」は今後特に公民連携が必要。

3. 情報提供 | まちのトレジャーハンティング@岡崎の報告

(1) まちのトレジャーハンティング@岡崎（以下、トレハン）開催概要

[りた 天野]

>トレハン参加者について

- ・定員 40 名のところ 82 名の応募があった。
- ・女性の参加者も多く、子供を連れて参加する方もいた。
- ・トレハン前から参加者の 6 割が市内在住。
- ・おとがわプロジェクトと関わりのある参加者も 6 割。
：市外からの参加者については移住希望者などもおり、おとがわプロジェクトに注目が集まっている。

>トレハンの内容について

- ・空きテナントになっている岡崎シビコの 6 階で行った、2 日間のイベント。
- ・主要回遊動線 QURUWA(くるわ | 以下、QURUWA)上の 5 つのエリアに分かれてフィールドワークを行った。
- ・日中のフィールドワークに加えて、夜まで議論を交わし、2 日目の夕方に公開で提案を発表した。

>トレハンでの提案について

- ・資料 3 によって確認。
- ・You Tube に各ユニットのプレゼンの動画がアップロードされている。
：URL はこちら <https://www.youtube.com/watch?v=qx2EJtreK1w>
- ・5 つのエリア分けについては次の通り。
 - ユニット A：駅前・（仮称）セントラルアベニュー（以下、CA）エリア
 - ユニット B：旧東海道・六供エリア
 - ユニット C：りぶらエリア
 - ユニット D：伊賀川・板屋エリア
 - ユニット E：乙川エリア
- ・今回のトレハンは今までと異なり、市民の方が起点となって提案を出してもらった。
- ・今後民間の‘やりたい’を行政が後押ししていく形で、公民連携を目指す。

- ・これまでの行政の都市戦略では漠然とした市民を対象にしたものしかなかった。
- ・トレハンではお母さん、働いている人、女子高生、住んでいる人 などいろんな人が参加し、これから役割を持ってまちづくりに関わっていくことがエリア内に示された。
- ・構想の重層的な部分を都市戦略として作っていくために、今後具体的な話をする中で明らかにしていきたい。
- ・各ユニットの課題や議論などは次の通り。

A：東岡崎駅前・CA エリア

- ・駅からのアクセスに関する課題について。
 - ：どうやって人を人道橋（仮称）の方へ誘導するか、気づかせるか。
 - ：東岡崎駅からまっすぐ北に行くと明代橋や殿橋を渡ってしまう。人道橋（仮称）へ導くにはどうしたら良いか。
 - ：殿橋からは桜が視界を遮り、CAが見にくいのではないか。QURUWAと東岡崎駅をどう繋いだら良いか。
 - ：人道橋（仮称）の上に賑わいが必要で、単に広いだけでは人は来ないのではないか。

B：旧東海道・六供エリア

- ・新しいコンテンツが生まれてきている二七市通りや連尺通りではなく、木造密集地区の六供町・花崗町で検討。
- ・六供町は、豊かな路地空間や雰囲気が残っているが、価値があることに気づかれていない。
- ・この地区に移住したい人や、関わってまちづくりを行っていきたい人がいる一方で、現状のままでは、残したい風景がなくなってしまう危険がある。

C：りぶらエリア

- ・QURUWA上で一番人がいるエリアだが、りぶらから外へは人が出ていかない。
- ・りぶらの外に人をどのように誘導するのが課題。
- ・シビコはアートの拠点として喫茶店跡が使われはじめたが、シビコとりぶらの間は駐車場で分断されているのでつながりが無い。
- ・駐車場の管理を一体化し、りぶらの北側を整備。人の流れと車の流れを変えることで、一体的な公園として整備できないか提案。

D：伊賀川・板屋エリア

- ・板屋町を中心にフィールドワーク。
- ・国道248号線、国道1号線、伊賀川に囲われた孤島のようなエリアだが、自転車を使えばりぶらやスーパー、河川、駅にも近く、車に頼らず生活できるエリア。
- ・車を排除したらどうかという提案。

E：乙川エリア

- ・フィールドワークの結果、人の少ないエリアだとわかった。
- ・しかし殿橋は車が多数行き交っている。マジョリティが乙川にアクセスしない状況。
- ・通過する人たちと乙川の接点をどう作っていくのが課題。
- ・昨年、社会実験として実施した「おとがワ！ンダーランド」や「殿橋テラス」を日常的に落とし込んでいきたいという意見が多かった。

- ・それぞれの提案の詳細については [YouTube](#) 参照。

4. 意見交換 | 市民起点の動きを実現していくためにすべきこと

[りた 天野]

- ・各エリアの課題について「こうやったらできるのではないか」「先にこういう動きをした方がいいのではないか」「この場所が良いのではないか」といった点について、具体的に提案を頂きながら議論を行っていきたい。

[山田]

- ・民間の家守事業者として連尺通りや二七市通りに店舗を出しているが、そこに商いをやろうとしている人を集めた結果、このエリアに住みたい人が出てきている。
- ・旧東海道・六供エリアには物価が下がっている遊休不動産がある上、職住近接という考えは非常にこのエリアのあり方にあっている。
- ・今回の提案の中で、六供町と板屋町に住むことを勧める提案があったが、大きな公共投資とスモールビジネスを伴って進めると良いのではないか。
：岡崎城や商店街活性化をやってきた中で、次の一手として実施することを推奨。
- ・自分たちの暮らしの延長上に商いがある、さらにその延長上に観光産業が生まれるようなイメージがある。
- ・RF エリアのグランドビジョンとして、板屋町と六供町でエリアを引っ張り合う、住みたい人が住めるような旗をどう立てていくか、今後検討すべき。

>トレハンに対する行政側のコメント

[企画課 岡田]

- ・従来のワークショップに比べると、今回のトレハンに参加した人が今後も責任を持って参加していきたいと言っている点が大きな成果。
：岡崎市外の人でもエキストラとして参加したいという人が出てきた。
- ・QURUWA 戦略に向けて、様々な人がまちにどう関わっていくかを考える必要がある。
：住んだり、ビジネスをしたりする以外の役割を見出す人が現れたことが、これまでの行政にはない新たな発見になった。

[都市計画課 木下]

- ・旧来のワークショップは参加者の意見を書いて提出し、その場で発表して終わりだったが、実現可能なものを有限な時間の中で考えたので有用だった。
- ・気づきや発見があり、理解して行動に移っていく。気持ちの変化がすごく大事であるが、今回のトレハンには、そのきっかけになっていた。
- ・より一層地域に浸かることで見えてくるものや世代が違って見えてくるもの、子供ができることで見えてくるものなど、それぞれの人生のライフステージ毎にまちの見え方も変わってくるので、まずは自分のまちを知って、意見を言い合っていくのが大切。
- ・100%合意は難しいので、だいたい緩やかな方向性を持っていく流れを作りたい。
- ・私の担当としては歴史まちづくりをやっているなので、今回の提案から自然、文化というレイヤーを読み解いていって、参考にしたい。

[商工労政課 畔柳]

- ・商工労政課では中心市街地でリノベーションまちづくりに取り組んでいるが、トレハンの中ではどんな気付きや利用の仕方があるのか、楽しみに見た。
- ・出てきた提案については全体の話から細部の話まで幅があったが、どのように事業の思惑に絡めていけるかを考えるのが我々行政の使命。
- ・幅広い年代から幅広い意見が出たので、一つでも多く実現したい。

[観光課 雑賀]

- ・観光課では、観光客をどう誘客したらいいかという課題に取り組んでいるが、市民の方にも誇りを持って観光に取り組んでもらえるような、新たな観光資源の気付きを得られるよいイベントだった。
- ・観光産業都市を目指す中で民間が稼ぐ取り組みを作っていきたい。

>トレハンの提案と公民連携について

[企画課 岡田]

- ・今回出てきた様々な戦略を公民連携で進めていく時に、今までの行政の体質とは異なり、どのように進めていくべきか知りたい。

[藤村]

- ・この公民連携の大事なところは、公共施設の管理運営に民間事業者がどのように参加していくか。
- ・トレハンで民間側が盛り上がっているが、行政側の大事なところは、民間をどうやって管理事業に巻き込んでいくか、という仕組みのところにある。

[泉]

- ・今回、高校生を含む多層な参加者のなかで、まちづくりが自分ごとになっている人たちが集まった上、そうでなかった人も参加することで意味を持った。関心度に応じて、参画するチャンネルを持ち続けることが大切。
- ・今までマスタープランを行政が作り完成形を民間に提示するのが普通だったが、今回目指しているものはライフステージや個人個人によって変わるので、不完全なものにするのがよいと思う。
 - ：完成させずに更新させていく。
 - ：トレハンを続けていくような、リクルーティングしていくものにできるとよい。
 - ：行政が作るものでもなくなっていくので、行政が作る部分、民間が作る部分をレイヤーで分けて、それを重ねていく形で更新していく、というのが大切。
 - ：通常であれば行政側には「完成させたい」「予算をつけたい」「担当を付けたい」という常識があるので、行政も民間も、両者があえて不完全だという認識の中で運用していく必要がある。
 - ：ただ、あまりにバラバラではいけないので、大きな方向性は共有するべき。
- ・誰にこのエリアを任せていくのか、という実務的な部分が重要。

[清水]

- ・トレハンを見て、日本社会、岡崎のまち自体が変わり始めてきていると感じた。この次のあり方が大事。
- ・特に高校生の発言については、「こんな立派な市民がいっぱい誕生しているのか」とパブリックマインドを持った責任ある市民の姿に感動した。
 - ：このようにパブリックマインドを持ち、豊かな公共を自分たちが担う自覚のある人が、ある一定の規模で出てきているのは素晴らしいこと。
- ・これに伴い、行政の方々も従来のやり方を変えていく必要がある。

- ：都市戦略という流れの中で進めるべきで、通常の行政と有識者が決めて行政が責任を持って進めていくというスタイルではない。
- ・民間の方々も自分たちが責任を持つ市民として、行政とともに作っていくべき。行政には、行政にしかできないことがある。
- ・公共空間は縛りがきつく、みんなのためのものだから自由にやっちはいけないということが多かった。
 - ：本当に責任ある市民がこんなにたくさんいる岡崎だったら、その人たちの創意工夫を存分に発揮できる仕組みが必要。
- ・このあたりが今後の新しい公民連携の方法になる。
 - ：行政も民間もこれを目指してやれば面白いまちができると感じた。

[山田]

- ・岡田さんから行政の体質改善の質問があったが、今回のトレハンは一点突破ではない。
- ・多様な視点で様々なまちの魅力が発見されたことが大切。
- ・この積み重ねが、結果的に岡崎市を観光産業都市にする。
- ・行政内でうまく横断し、緩やかにつなげていながら、タイミングを見て観光まちづくりや歴史まちづくりへも繋げられるのではないか。連携すべきことがまだまだある。
- ・各課や各政策について、委託先ではなくパートナー（例 観光まちづくりでいえば観光協会）のマネジメントが大切。
- ・おとがわプロジェクトのイベントなどにパートナーに来てもらい、自分たちの考えを理解してもらうことが必要。
- ・公民連携の民のマネジメントを行政が担っても良いのでは。

>公共空間の公益性について

[企画課 岡田]

- ・行政が横断的になった時に緩やかな方向性を持つことは、今後公民連携をやっていくなかで重要視すべきこと。

[藤村]

- ・公共空間なので公益性をどう確保するのかということと、公益性を担保しながら質をどう上げるのがポイント。
- ・「どんな事業でもいい」というビジネス化ではなく、「どういうクオリティが必要なのか」をコントロールする諮問機関、第三者機関が必要。
- ・やはり利権が発生してしまうこともあるので、そこをチェックし、庁内の論理も分かる諮問機関を作れないか。

[清水]

- ・藤村さんの話につけ加えると管理する側のガバナンスが重要。
- ・自分も千代田区の廃校で、文化拠点を民間自力経営しているが、このガバナンスの仕組みとしては、外部評議委員会がある。
 - ：経理の外部監査は年一回あり、指定管理より厳しい。
 - ：アートセンターの活動計画は年度の初めまでに千代田区に提出。
 - ：それを認めてもらった上で活動し、その評価が半年に一回ずつある。

- ：公共サービスを行うので、利用者や近隣住民からの声を聞き、改善すべき点は積極的に改善している。
- ・このように、選ぶだけではなく、ガバナンスしていく仕組みが必要。
- ・民間の場合は公共心を持って公共サービスを担当していく必要がある。
- ・非難する意味ではないが、従来の公共サービスは極めて陳腐であり、利用者もあまり増えないので、この辺りは民間を頼りにして、民間自立で経営できる視点を取り入れるべき。
- ・目的性に応じて、自律的に経営できる民間の会社があれば可能であり、この方法を岡崎でもできればいいのでは。

[藤村]

- ・一般的に、指定管理よりも自立経営の方が経営力が求められる。
- ・RF 地区の 50%を占める公共空間の敷地において、民間自立と指定管理に向いている場所はそれぞれ違うと思う。

[清水]

- ・民間自立での例で千代田区を挙げた。
 - ：千代田区に家賃を払っているが、千代田区は初期投資で 1 億 9 千万円かかっている。これを取り戻すという事業スキームで始まった。
 - ：3331 アーツ千代田の場合は実際にやったら簡単にできたが、用途等によっては必ずしもできるとは限らない。
 - ：そこは指定管理でやるべきかもしれない。
- ・公園の例では、先般豊島区池袋の南池袋公園に、カフェを 1 軒作った例がある。
 - ：カフェ事業者は、ナショナルチェーンのカフェではなく地場の池袋周辺のまちな関わっている飲食店の経営者を選び、公園自体が劇的によくなった。
 - ：カフェは民間が経営し収益を出す施設だが、実際にはカフェで打合せをしたり人と出会ったりする公共的な機能を担っている。
 - ：カフェがある公園と、ない公園。どちらが市民にとってより使いやすいか、より快適か、という議論が大切。
 - ：収益力があるだけではなく、公共空間の質をさらに高める機能がカフェにはある。
- ・以上が成り立つ場所が QURUWA にはたくさんある。このような場所ができれば、市民にとってよいエリアになる。
- ・収益の売り上げの一部を、公共施設の維持管理費に回してもらうことも可能。
- ・公共空間の質を高め、なおかつ維持管理コストを減らすことを実践すべき。
- ・もちろん公共しかできない部分は、指定管理的なやり方でも回せる。
- ・このように公共と民間の 2 色ほどの色分けでつくれるとよい。

>公共空間の管理について

[企画課 岡田]

- ・道路は通行のための公共空間だったが、そこに価値を見出して使ってもらおうということだった。その管理を任せて使ってもらえればいいのか。

[清水]

- ・特に QURUWA 上の空間では、道路空間を車のために使うのではなく、人間（歩く人やコミュニティ型の交通などをあわせて）のために再配分することが大切。道路空間の活用の仕方については岡田さんの言われた通り。

[藤村]

- ・りぶらのように、もともと人がいるところには民間のポテンシャルがある。
- ・籠田公園については、駐車場と公園を一緒に管理するなど指定管理制度改革を行うことで、いくつかのタイプ分けが可能。

[長谷川]

- ・道路空間や河川空間など、各エリアのオープンスペースについては、そこに何の（収益を上げられる）コンテンツが付いているか次第で、自立で行けるのか、公共のお金でやっていくのか、両者をどう言う按分にするのか考える必要があるのではないかと。
- ・民間が提供できる公共スペースについては、場所のクオリティ、雰囲気、性質のようなものは各民間に委ねて良いが、道路空間などの公共が所有する空間については、家守の代わりに道守、公園守のような存在がいてもよい。
 - ：エリア毎に、場所の有り様（あるべきブランド価値やその人の主体的価値観を含めて）責任を持っている立場の人がいるべき。オープンスペースの場合は建築以上にその影響が大きいため、慎重に考えていく必要がある。
 - ：一方で、指定管理という言葉からその像が浮かんでこない。
- ・例えば、カフェのマスターは自分のお金で自分のやりたいことをやっているが、カフェ自体はまちに開いている。所有が民間であれ公共であれ、それぞれにちゃんと色をついた空間があって、それぞれのありようで公共に開かれているというかたちの方が楽しい町になると思う。
 - ：公共空間などは特に「みんなのために」というおぼけが出てきて、誰のためにやっているのかわからなくなることが多い。

[藤村]

- ・管理運営と言っているが、それが新しい指定管理のありかた。
 - ：天王寺公園とか南池袋公園のように、管理・運営事業もある。
- ・指定管理のようにルーティンに沿った管理体制ではなく、長谷川さんの言う通り、柔軟な新しい指定管理が必要。
 - ：それを PPP と言ったり、新しい家守と言ったりしている。

[泉]

- ・誰かに管理を任せて良いのでは。
 - ：公平性原理だと色を付けるのは難しいが、個人の色をだしていてもよい。
- ・これから自分ごとにしていく。公共も個、人から始まる。コアな人や事業者がつけようとしている色をどう認めてあげるかが重要になる。
 - ：これは管理者を選ぶ時もそうだが、ランニング（管理・運営）しているときも同じ。
 - ：水都大阪でも、年に 2 回評価委員会を実施。
- ・ただ、全部指定されているという仕様ではなく、ゆとりのある仕様に設定。
- ・どこに重点的に投資するか、どういう個性にしていくかを提案できる。
- ・民間事業者を誘致することを行政に提案すべきであり、個性を認めながら、全体性を共有することが大切。

>りぶらエリアについて

[りた 天野]

- ・具体的な空間について、以前から交通や駐車場、ストリートを動かす話があるが、具体的に QURUWA 上で実施していくべきことについての意見を伺いたい。

[山田]

- ・りぶらとシビコの間を繋ぐことは良いと思った。
- ・りぶらの中にいる人を外に流すためには、シビコとりぶらの間に仕掛けが必要。
- ・それと同時に公共ができることは、駐車場を北に移動させて、地続きにしてしまうことではないか。
：これに対して、住民や図書館利用者が不便にならないのか、などを検証しなければならない。
- ・現状だと車を通さないプロムナードになっているが、人も通っていない。

[企画課 岡田]

- ・りぶらに来る市民は、図書館を主な利用目的にしている。
：そもそもりぶらの外に出ていく発想がないのか、慣れていないのかがわからない。

[長谷川]

- ・りぶらの外に出るといふ発想がないのではないか。
- ・豊かな屋外空間があれば使うはず。りぶらが建物として内側に向けて完結しすぎているのでは。
：インターフェースが大切だが、外が大きく切り離されている印象。
- ・りぶらの外の空間が今の状態から変化し、中の活動が外でもできるようになれば、人の動きが変わるはず。

[藤村]

- ・デザインの問題。道路の幅が変わるだけで人の流れが変わる。
- ・交通計画の羽藤さんも提案されているが、道路を芝生に置き換えるだけで変わる。

[企画課 岡田]

- ・りぶらの伊賀川側、西向きの方が外に向いたイメージで作っている。
：河川にも降りていけるデザイン。

[藤村]

- ・りぶらの中に入っている機能の問題もあるのでは。
：カフェやキオスクではりぶらの外に出て行きにくい。
- ・アトラクターなど、魅力による誘引がないと人は出てこない。人が出てくるきっかけが必要。
- ・ここについては改善の余地があり、小さなきっかけでも人が出てくると思う。

[山田]

- ・指定管理者の考え方だと、箱の中の管理という意識しかない。
- ・りぶらが何のためにあって、どんな役割を果たせるのか検討すべき。
：敷地は東側にも南側にも北側にもあるのに、現状では意識が建物の中しか向いていない。
- ・今は管理者やりぶらの中に入っている事業者がしっかりと考えるタイミング。

- ・指定管理者の見直しで範囲をどこまで広げる必要があるのか。市民会館や岡崎公園も見直した方がよい。

[清水]

- ・現状のように、りぶらの中だけで活動が行われているという敷地主義では良くならない。施設単体ではなく、施設とそれを取り巻くエリアのマネジメントに変えるべき。
- ・特に大事なのは道路。駐車場への道は真ん中に作る必要はない。
- ・こんなにビジネスの可能性が内在しているところはないのに、ビジネスにつなげて考える人はいないのか。

[山田]

- ・トレハンでは、観光バスをこの駐車場に入れた方がいいという話も出ていた。
- ・岡崎公園のみに観光バスが行って帰ってしまうのに対して、りぶらに駐車してもらえばまち歩き観光になる。
- ・りぶらはジャズも市民活動もある場所。りぶらがまちの入りとして、まちの情報センターになるといいのでは。

[長谷川]

- ・りぶらはここだけのポテンシャルがあるオープンスペース（エリア）としても捉えることが出来る。
- ・ここを芝生広場にするのであれば、籠田公園や岡崎公園のそれとは役割を変えないといけない。
：芝生広場同士で対立してしまうのは避けるべき。
- ・使用のイメージを共有・議論する場としてデザイン会議が機能すればよい。

[山田]

- ・トレハンでは、りぶらで学んで、シビコで作って、（間にある）広場で実験をする。という一連の流れを持つ提案が出ていた。

[藤村]

- ・長谷川さんが言うように、機能やビジネスだけではなく、このデザイン会議ではデザインが議題に上がることも重要。
- ・計画に対して、人が出てくる図面、出てこない図面など、デザインについてもそろそろ議題になってよいはず。

[山田]

- ・「Park」という言葉は公園も駐車場も示すように、駐車場を目的とした駐車場にするのではなく、公園としても一緒に考えていきたい。

>駅前・CAエリアについて

[長谷川]

- ・ユニットAでは、CAの設計が先行しているので、これをどう生かすかという話が出てくると予想していた。
- ・CAの軸に直行する道が意外に広い。籠田公園は面として広がりのある使われ方のイメージがあるが、中央緑道は使い方のサポートをしっかりとる必要がある。

- ・事業に頼るだけでなく、広い道に縦列の駐車帯があるなど、気軽に行けて簡単に駐車ができるように、アクセス面でもサポートしたい。

[清水]

- ・CAの軸に直行する道に駐車帯を付随する道路を作るなど、そのあたりのことまで含めたストリートデザインを、QURUWAエリアの面上でデザインしたい。

[藤村]

- ・駐車場法を変えていく流れがあるが、現状の籠田公園地下駐車場は遠いか。

[長谷川]

- ・中央緑道に人を呼ぶには遠いと思っている。
：籠田公園地下駐車場から公園を経由して中央緑道にアクセスするしかない。
- ・籠田公園周辺の活動に対して気軽に駐車できるような駐車場が、地下より近くに欲しい。

[藤村]

- ・街路を含めたストリートデザインの議論については、先ほどの芝生と一緒に、デザインが必要。

[清水]

- ・今のように、あまり利用率が高くない道をどう変えていくのか、細かい話ではあるが必要な議論。
- ・トレハンの提案の中で、人道橋（仮称）をどんな風に使ったらいいか、人道橋（仮称）が目的地化するにはどうしたらよいか、隣接する橋詰広場をどうしたらよいか、市民に積極的に使わせるにはどうしたらよいかなどの意見が出ていた。
- ・人道橋（仮称）という「橋ができる議論」のみではなく、目的地になるにはどうすればいいか、どう使いこなすかを議論する必要がある。

[りた 天野]

- ・ご指摘通り、中央緑道や籠田公園は長谷川さんもそういったことを検討しているし、それを目的化したワークショップ（QURUWA FUTURE VISION DAY1-3）も実施したが、人道橋（仮称）の方はそこまでいけてない。
：籠田公園や中央緑道と一緒に使う視点が必要。

[長谷川]

- ・人道橋（仮称）の橋詰が両側にあったら良いと思うが、駅からは明代橋に出るのが普通。その時に西側（CA側）に何が見えるかが大事。
- ・人道橋（仮称）の上と両端が賑わっていれば、そこにいくようになるのではないかな。
- ・籠田公園と人道橋（仮称）の2極がうまくいってれば、QURUWAとして繋がる空間ができる。
- ・楽しげなまちの姿が見えるというシチュエーションが大切。

[企画課 岡田]

- ・ユニットAの提案の中に、橋は特等席とあったが、修景的に価値を高めるために、どこに気をつければいいか。

[長谷川]

- ・人道橋（仮称）が滞留できる設えになっていることが大切。
 - ：橋の上は眺めを見るにはいい場所というイメージがあるが、それを邪魔せず例えば橋の両端に建物があって市場になっていても良いと思う。
 - ：両端の市場辺りが賑やかで、真ん中のはんびりしているなど、抛り所のひだを作ってあげると滞留できる人が出てくる。

[藤村]

- ・橋にデザインがないと、いくら広かったとしても使われない空間になってしまう。
 - ：幅広な橋を掛けることが流行った時代があるが、全体的にデザインで失敗していて、イベントで使用許可を出しても事業者が手をあげない状況だった。
- ・アトラクターとなるものが必要。
- ・機能は（場合によっては）道路と同じでも、橋の上にカフェがあってもよいなど、イベントや防災にも使える空間になると良い。
- ・積極的な生活の場、居場所としての橋を検討すべき。

[泉]

- ・人道橋（仮称）は公園橋なので、土木構築物ではあるが公園を作るとして計画すると良い。
 - ：そこでの目的や価値について考えると、公園に必要なものやインフラが出てくる。
- ・簡単なものは建てられるかもしれないし、人が滞留できるようなイメージがあれば公園として機能するはず。

>乙川エリアについて

[清水]

- ・岡崎の最もメジャーな通行量があるところで殿橋テラスがあるときとない時の風景の差で、これがどのくらい大事かがわかる。
 - ：殿橋テラスは、唯一まちと乙川の接点を作り出していた。
 - ：風景的には橋の上から川が見えるという接点があるが、実際には、殿橋テラスしか接点がない。
- ・殿橋テラスについては橋詰一箇所の利用だったが、今後は4箇所全てを利用するという提案を出し常設化を目指すべき。

[泉]

- ・殿橋テラスについては、ちょうど河川管理者と調整を進めている。

[天野]

- ・トレハンの参加者の中にもかわまちづくりに関わる国交省の方がいて、国の見解では十分常設化できると言っていた。

>人道橋（仮称）について

[山田]

- ・CAができるのは3年後なので、そこに向けた作戦を立てる必要がある。
 - ：来年度は6月にウエディング、夏にはマルシェ、11月に寝袋シネマ、と社会実験を行う予定。
- ・しかし人道橋（仮称）はこのような検討ができていない。
 - ：形も見えない上、初めてのものなので議論しにくい。

- ：どのように3年間の企画を立てるかが課題。
- ・トレハンの中では、橋の完成イベントをどうするのかという話もでた。
- ・人道橋（仮称）ができるまでの3年間の過ごし方と、最終的にどういう形で、今何をしておくべきかについてはどうか。

[長谷川]

- ・橋詰であれば一時的に締めて、社会実験的に試すことはできる。
：橋詰と河川敷を連動して企画するのはどうか。

[泉]

- ・豊川信用金庫岡崎支店の跡地はどうか。

>エリア全体の都市デザインについて

[りた 天野]

- ・トレハンでは、都市デザインについて駐車場や交通計画の話が出た一方で、理想の暮らしの実現や、責任を持ってまちのなかで役割を見つけていくなど、高校生や母親が意思を持った意見が出た。
- ・それに対して、もともと挙げられている循環型産業やスマートコミュニティなどは意見として少なかった。
- ・今回旗を立てるにあたり、どのエリアにどういう旗を立てるのかを議論したい。

[山田]

- ・全体の提案の中で、働き方については全てのエリアで共通して出てきた。
- ・六供町も板屋町も、暮らしの延長でこの場所がどうあるべきか、という話があった。
- ・日常の遊び方や働き方があり、そこにどういう循環型の食があれば良いかを議論したい。
- ・担い手がどのようにこのエリアの旗を立てるのかについて、精査した方がよい。

[企画課 岡田]

- ・プロモーションについて、観光とローカルとビジネスの3つの視点を持つべきという話があったが、
その中で、従来の行政は観光の視点しか持っていない。
：まちの非日常を見に来てもらうイメージが強かった。
：この視点を暮らしに置くと、ローカルが大事となってくる。
- ・女性が働いているという印象が強い。そういう人たちが暮らせる、働けるという視点をもつと、良いのではないかと。
：キーワードとしては、子持ちの女性、暮らしている女性。という旗を立てられるとよい。
- ・岡崎の産業構造として自動車系が多いのを見ると、働きたい女性にまちで働いてもらうのはよいこと。

[商工労政課 畔柳]

- ・家守テーブルの中に位置付けられているライフスタイルデザインが、今後、どういう形になっていくのが重要。
- ・これについては民間から積極的に提案してもらいたい。

[山田]

- ・おとがわプロジェクトを進める中では、高校生が出てきたのが印象的。

- : QURUWA FUTURE VISION では、ある1人の高校生が個人的な話から提案をし、今回のトレハンでは、もう1人の高校生が、まちが変わるなら関わりたいと言ってくれた。
- ・高校生とまちとの接点作りについては、中心市街地がその子たちにとってどういう場所なのかを描いてあげる方が良いのでは。
 - ・10代、20代がこのまちにどう関わりを持てるのかが大切。戦略にしても良い。
 - ・トレハンのトークライブの中で、ゲストの影山知明さんが「このまちに賢い人は多い」と言っていたが、「与えられた枠を超えてやっていく能力が必ずしも高い地域ではない」と言っていたのが印象的。
 - ・今回たまたま2人の高校生が現れたことで、まちのイメージや公共空間のイメージが変わる可能性がある。

>伊賀川・板屋エリアについて

[りた 天野]

- ・5つのエリアで見た時に、伊賀川だけは公共の計画などがない状態。
- ・羽藤先生から回答待ちだが、トランジットセル、コミュニティ交通などをどうするかについても、検討していく必要がある。
- ・ストリートデザインや社会実験をやりたい、という話はあるが具体的には何もない。

[山田]

- ・伊賀川についてははりぶらエリアからも提案を受けている。市としては、整備はされているが、観光や歴史について、どういう話が出ているか？

[観光課 雑賀]

- ・桜の時期は最も観光客が来て頂く時期であり、伊賀川沿いでは観光船を運航するなど、民間が事業企画している。
- ・花見や花火の時期は一時的ではあるが公園全体をPRしている。花見以外の時期においても今後観光船や屋台などによる賑わいが創出されれば観光PRする可能性がある。

[山田]

- ・伊賀川沿いでのイベントは予定されていないのか。

[観光課 雑賀]

- ・岡崎おもてなしキャラバン隊というフードカーが出店する岡崎公園内でのイベント実績はあり、家康館前や多目的広場、河川敷など誘客が見込める場所でイベントを開催している。伊賀川沿いは、城の影に隠れてしまう場所で現状では人の流れが無い場所であるため、イベントの実績はない。

[企画課 岡田]

- ・昔は国道1号線の西側のたもとに動物園があった。北側は県の管理、南側は市の管理になっている。
- ・今年度、QURUWA戦略が出てきたので、見直しが必要な場所。
- ・今まで岡崎公園は南側の河川敷に視点がいきがちだったが、他の場所にも価値を見いだせるのならば、市として県に交渉に行くことも可能。

[りた 天野]

- ・トレハンのユニットDから自転車だけで生活できるエリアとしてレンタサイクルの充実などが提案されていた。
- ・企画課でシェアサイクルを検討していたが、今考えていることは。

[企画課 岡田]

- ・シェアサイクルの実証実験をやりたい。
- ・QURUWA 戦略を意識しながら、現在は名鉄東岡崎駅でレンタサイクルをやっている。
- ・QURUWA の回遊性を追求すると、そこに沿う利便性の高いものが必要だと思う。
 - ：どこにサイクルポートが置けるのか、来年度実施する上で参考にしたい。
 - ：報道発表で北東街区の提案が出てきているので、そことも連携したい。

>トレハンで提案の出なかった点について

[山田]

- ・歴史、観光という観点がトレハンでは出てこなかった。参加者のキャスティングが原因だと思うが、その辺りをまちづくりとどう連携していくか。

[都市計画課 木下]

- ・歴史のコンテンツ作りが大切。
 - ：家康が生まれた坂谷曲輪もある。
- ・城郭遺構を復元する構想はあり、史実に基づいた復元を考える必要がある。
- ・人道橋（仮称）から籠田公園が見えるか/見えないかについては重要。賑わいは見えるべき。
- ・籠田公園へ行った人になりぶらが見えていれば、歩いてりぶらまで行くのでは。
- ・人道橋（仮称）が目的地化するためにはより詳細についても検討すべき。
 - ：見せるべき風景を作るために、どのような規制をかけていくかの検討が重要。
- ・今までの都市計画はゾーニングとして区画をはっきり分けてきたが、暮らし方という視点からすると、住居や商店などの種類が色々あったほうが暮らしたい人が増えるのではないか。

[山田]

- ・暮らしや、歴史などについて、同じ視点で交通を考えていけないか。
- ・歩行者中心と言いながらも決定根拠がないため、行政内で方針が出せていない。

[都市計画課 木下]

- ・交通については、交通以外の人も議論することで、詳細まで決まっていくのではないか。

[りた 天野]

- ・木材活用、まちなか居住、循環などの点では、太陽の城跡地などの堤防道路については、歩行者中心の道路として検討中。その際、額田の木材を使いたいという話が、トレハンの中で出ていた。

>推進会議の議題について

[山田]

- ・推進会議に何を提案するか確認したい。
- ・トレハンの成果をゆるやかにつなげ、公民連携で進めていきたい。
 - ：りぶらの駐車場の提案、検討していくことは可能か。
 - ：殿橋テラスの4隅の常設化。

- ：人道橋（仮称）の活用と目的地化について。
- ：観光まちづくりや歴史まちづくりについて。
- ：伊賀川の活用などをどう打ち出していくか。
- ：交通（自動運転、自転車）の考え方。
- ：公共空間の管理運営について。
- ：高校生とまちづくりの接点について。

[藤村]

- ・成果をゆるやかに繋げるかどうかは手法である。
- ・管理運営の方法をきちんと議論していく必要があることを、改めて伝えないといけない。

[清水]

- ・高校生とまちづくりとの接点をどう作るのかは大切なテーマ。

[藤村]

- ・乙川上流に板状の建物を建ててしまったら終わり。これについてはオーナーと継続的な対話が必要。
- ・北岸のまちづくりのルールが必要。
 - ：働き方や交流人口を一律に指摘するよりは、景観対策として議論していく必要がある。
 - ：乙川北岸の空き家対策の検討。
- ・アーバンデザインの問題を考えると QURUWA 戦略以外の戦略が必要。
 - ：東西軸の視線の話がない。
 - ：アーバンデザインでは動線とともに視線の話がセットであるべき。
- ・次回以降、デザイン会議に RF 地区の模型が必要なのでは。

[清水]

- ・規制をかけるのが遅いからといって、景観の規制を定めないとよくない。100年先の景観を考えるべき。
- ・岡崎城が見えないのはとても残念。景観を謳うことは必要。ビスタラインの規制が当然あってよい。それくらい価値がある。
 - ：乙川の北岸、南岸も含めて、景観規制があるべき。
 - ：岡崎城をとりまくすり鉢状のビスタラインを規制の対象にすべき。

[りた 天野]

- ・3/21（火）にりぶらホールにて実施される、QURUWA 戦略フォーラムのアナウンス。
 - ：詳細は、おとがわプロジェクト Facebook にて。

■配布資料

資料1：乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン会議の位置づけ

資料2：乙川 RF 地区における都市戦略策定のスキーム

資料2-2：おとがわプロジェクト | 乙川 RF 地区における都市戦略相関図

資料3：まちのトレジャーハンティング@岡崎提案まとめ

